理事長・院長あいさつ

理事長・院長　大西宏之

2023 年 4 月に理事長が交代し新たなスタートが始まりはや一年が経過しました。色々と戸惑いもあった中、なんとか順調な滑り出しで例年以上の診療実績を上げることができました。これは皆様方の日頃のご支援の賜物かと存じますのでまずは御礼申し上げます。

さて、昨年 4 月からの新体制を振り返ってみたいと思いますが、まず取り組んだことはコロナ前の平常の状態に戻ることでした。今回のこの理事長交代というのは、近年のコロナ禍によって閉鎖的な、そして混沌とした雰囲気を一新したいという思いがあったからですが、ようやくコロナ前の状態に戻ったのではないかと思います。入院患者の面会制限を解除することでトラブルも少なくなってきましたし、対外的なことでは病診連携の会を懇親会つきで再開しました。近隣病院への施設訪問やさまざまな研究会を通じて、たくさんの先生方から当院への期待や感謝のお言葉をいただき大変励みになりましたし、当院が多くの院外の方々に支えられていることを再認識致しました。また院内に目を向けますとスタッフ間の連携を図るべく、多くのレクリエーションや忘年会が再開され、以前に比べ顔の見える連携が図れるようになったのではないかと思います。このように以前では当たり前であったことができるようになって初めて混沌とした雰囲気から脱却し新たなチャレンジをしようという機運になってきました。昨年 4 月、所信表明の挨拶でも、今後の取り組みとして 3 つの柱を挙げさせていただきました。医療安全、危機管理対策、スタッフの人材育成、そして最新技術の導入という 3 つの基本方針に沿って進めてきましたが、いずれもまだまだ始まったばかりでようやく種が蒔かれただけの状態です。医療安全については現状の課題を洗い出し、それを元に今年度、新たなプロジェクトを進めていきます。人材育成に関しては、ドクター教育や次世代リーダー層の育成、新たな人材発掘・離職防止に向けたプロジェクトなどが各々始まっています。そして、最新技術という点では、電子カルテの更新や最新 MRI 機器の導入なども始まりこれによって業務の効率化が期待できるかと思います。また今年度、回復期病棟の増床計画も本格的に進んでいきます。このようにまだまだ始まったばかりですが、なんとか新たなチャレンジをしていきたいという雰囲気になってきただけでも、本当に良かったと思っています。一方で社会に目を向けますと、今年は「医療・介護・福祉の診療報酬トリプル改定」や「医師の働き方改革」、「医療 Dx の推進」などがスタートする社会的に見ても大きな一年になります。当院としてもこの社会の変革に柔軟に対応できるよう十分な準備を進めて参ります。近年、「サステナビリティ」という言葉をよく耳にしますが、日本語で「持続可能性」を意味します。これは、環境や社会、経済、人々の健康などあらゆる場面において「将来にわたって機能を失わずに続けていくことができるシステム」を指しますが、病院のあり方においても同じことが言えるのではないでしょうか。これからも目先の利益やパフォーマンスを追求するのではなく、長期的な目線で変化する環境に柔軟に対応し、新たなチャンスに積極的に取り組んでいくつもりです。この年報は、これまでの道のりや今後の展望を示すとともに、私たちが未来に向けて向かう姿勢をまとめたものですので、ご高覧頂けましたら幸いです。